

肝細胞癌リスクに関連する血清中の interleukin-6 : コホート内症例対照研究[§]

Serum Interleukin-6 Associated with Hepatocellular Carcinoma Risk: A Nested Case-control Study

大石和佳 John B Cologne 藤原佐枝子 鈴木 元 林 奉権 丹羽保晴
赤星正純 植田慶子 柘植雅貴 茶山一彰

要約

炎症性マーカーは、結腸がん、肺がん、乳がん、肝がんなど様々ながんリスクの増加に関連しているが、その証拠には一貫性がない。我々は原爆被爆者の長期追跡コホートにおいてコホート内症例対照研究を行った。研究対象は、224 の肝細胞癌(HCC)症例と、その症例に性、年齢、都市、血清保存の時期と方法を一致させ、放射線量に基づくカウンターマッチング法によって選択した644の対照例である。測定に十分な血液量を有するHCC診断前6年以内の188症例と605対照例の保存血清を用いて、C反応性蛋白質(CRP)とinterleukin(IL)-6を測定した。肝炎ウイルス感染、飲酒量、喫煙習慣、肥満度指数(BMI)、放射線量を調整した解析では、CRPレベルの低値群に対する高値群のHCCの相対リスク(95%信頼区間[CI])は、1.94(0.72-5.51)であった($p = 0.20$)。IL-6レベルの低値群に対する高値群のHCCの相対リスク(95%CI)は、5.12(1.54-20.1)であった($p = 0.007$)。BMI $>25.0 \text{ kg/m}^2$ の人では、log IL-6の1標準偏差(1-SD)増加に対するHCCの相対リスク(95%CI)が3.09(1.78-5.81)であり($p = 0.015$)、BMIが5分位の間(21.3-22.9 kg/m^2)の人に比べIL-6レベルとHCCリスクのより強い関連が認められた。これらの結果は、より高い血清中のIL-6レベルが、肝炎ウイルス感染、生活習慣関連因子、放射線被曝と独立してHCCリスクの増加に関連することを示唆している。その関連は、特に肥満の人で顕著であった。

[§] 本報告書は *Int J Cancer* 2014 (January); 134(1):154-63 (doi: 10.1002/ijc.28337) に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト(英文)である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が John Wiley & Sons, Inc. の許可を得て作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト(英文)によるべきである。 © 2013 UICC